

センター長あいさつ

医学部長 丸山 眞杉

医師養成においては、卒前・卒後での教育目標の重複、新専門医制度による専門医の地域別・領域別偏在への懸念、本格到来する高齢化社会への対応など、様々な課題が山積しています。看護師養成においても、特定行為研修制度の導入など新たな動きが見られます。また、医療安全・技能教育を効果的に行う手段としてシミュレーション教育が注目され、多様化する医療者キャリアについて将来を不安視する学生も増えてきています。この状況の下、宮崎大学医学部では、卒前・卒後・専門医教育まで一貫通した医師養成を支援・実践する臨床医学教育部門に加え、看護実践教育部門、医療シミュレーション教育統括部門、医療人キャリア支援部門を統合した医療人育成支援センターを新設しました。これだけの広範なミッションを持つ教育組織は全国的にもあまり例がなく、本学が変動の激しい医療者養成分野に柔軟に対応していくための大改革と位置づけています。



本センターには教育に情熱を燃やす7名の専任教員が集いました。本学のスローガン『世界を視野に地域から始めよう』を体現すべく、宮崎に根を張りながら全国でも活躍できる、視野の広い人間性の豊かな医療人を育成していきたいと考えています。本センターの活動にご協力とご支援をお願い申し上げます。

副センター長あいさつ

臨床医学教育部門 教授 小松 弘幸

皆様、こんにちは。いよいよ創刊号を皆様にお届けできることとなりました。私は大学病院の卒後臨床研修センター長も拝命しており、文字通り「卒前・卒後一貫教育」を体現すべく意気込んでおります。臨床医学教育部門は、医学部教育の根幹充実（早期医療体験の推進、基本診療能力向上の教育実践、宮崎県全体を教育フィールドとした臨床研修・専門医プログラムの展開）、人間性豊かな医師の育成（プロフェッショナリズム、コミュニケーション能力、医療倫理・医療安全）、地域社会への貢献と学際性の追求（若手医師の宮崎定着推進、教育活動成果の学内還元と全国への発信、次世代医学教育者の育成）を達成目標として活動致します。この中で医療シミュレーション教育を積極的に活用し、医学生の頃から医師キャリアを考える機会も増やし、看護実践教育部門と共同して医師・看護師共通教育基盤の構築にも取り組みたいと考えています。相当欲張った抱負ですが、志を高く持ち、全国から「宮崎モデル」と一目置かれる教育体制の構築を目指して着実に謙虚に頑張りたいと思います。皆様のご支援とご協力をよろしく申し上げます。



センター配置図紹介



組織図



スタッフ紹介



こまつ ひろゆき
小松 弘幸
医療人育成支援副センター長
卒後臨床研修センター長
臨床医学教育部門教授/部門長

医療人育成支援センターに関わった方々（学生、医師、看護師、事務職など）がみんなハッピーだと感じてもらえるように、自分なりの“利他的精神”を追求して頑張ります。



あべ ひろお
安倍 弘生
臨床医学教育部門講師
副部門長

医学部教育・臨床研修・専門医養成を有機的に繋ぎ、より良い学びの環境をつくるお手伝いができたらと思っています。



ふなもと たろう
船元 太郎
臨床医学教育部門助教
医療人キャリア支援部門長

医療人キャリア支援部門を主に担当します。現在は医療の最前線から離れている医師、看護師などの医療専門職の方に安心して医療関係の仕事に復帰できるようサポートしていきます。



なかしま こうじ
中島 孝治
臨床医学教育部門助教
卒後臨床研修センター副センター長

これまで消化器内科医として、診療、教育に関わって参りました。その経験を生かし、医学・医療の分野の人材育成のお手伝いが出来ればと思っています。よろしくお願ひします。



ながの たけのこ
長野 健彦
臨床医学教育部門助教
医療シミュレーション教育統括部門長

救急関連のシミュレーション教育コースのインストラクターをして活動してきた経験から、シミュレーション教育部門でお手伝いできればと思います。



やまもと えみこ
山本 恵美子
看護実践教育部門講師
部門長

看護領域における卒前・卒後の一貫して行うための教育企画と支援を目標として活動していきます。他部門との協働を図り、看護実践能力の定着と向上を目指していきたいと思っています。



かとう さやか
加藤 沙弥佳
看護実践教育部門助教
副部門長

看護の卒前・卒後の一貫した教育を目指して頑張ります！また、地域に向けた情報発信も出来ればと思っています。



ふなはし みほこ
舟橋 美保子
医療シミュレーション教育統括部門事務
臨床技術トレーニングセンター管理

トレーニングセンターを気軽に使用できる環境作りや企画などを行っていきたくと思っています。

各部門活動報告

臨床医学教育部門

当センターでは学生に対して以下のような実習を実施しております。

- ①教育用電子カルテを使用した医療安全教育(担当:船元)
- ②医療面接実習(担当:林、小松、安倍)
- ③心音実習(担当:小松)
- ④採血実習(担当:山本、加藤)

今回は私が担当しております医療面接実習について紹介します。実習では医学科5年生6人に対してそれぞれ、1名の模擬患者(SP)さんと医療面接のロールプレイを行ってもらい、コミュニケーションの取り方について学んでもらっています。医療面接は疾患の情報収集だけでなく、患者-医師関係の構築にも重要です。そのため、実習では情報収集の技術のみならず面接中の態度にも注意して指導を行っております。また模擬患者さんが医師役の学生の面接を受けてどのように感じたか、どんな点が気になったかをフィードバックしていただき、患者目線での問題点を指摘してもらい、これが大きな学びとなっているようです。

(安倍)



看護実践教育部門

目指せ! 卒前・卒後のシームレス教育

看護実践教育部門では、看護学科・大学院看護学研究科、看護部との合同委員会において、卒前・卒後の一貫した教育に向けた取り組みを進めております。その取り組みの一つとして、静脈血採血技術の手順の統一を図る試みが行なわれ、協働して指導を行う連携体制の構築が進められております。このような連携体制の構築が進められる中で、看護実践教育部門では、シミュレーションセンターの活用を通じて、学習者が学習段階に応じて目標達成できるよう、看護学生や看護師の看護技術の向上を目指していきます。

また潜在看護師の復職支援に向け、さまざまなニーズに対応できるよう、シミュレーションを活用した復職支援研修プログラムの開発を目指しております。今後の展望としては、看護学科、看護部と協働し、卒前と卒後のシームレスな教育を進めていくこと、さらには院内・学内に限らず、地域貢献の一環として、宮崎県の医療を支える看護師の育成、及び、看護実践能力のさらなる向上を目指し、様々な活動を展開していきたいと思っております。

(山本・加藤)



医療シミュレーション教育統括部門

平成28年度
第2回二次救急処置(ICLS)コースを
開催!

宮崎大学医学部附属病院では、平成24年10月から本院全職員を対象に臨床技術トレーニングセンターを利用してBLS講習会を開催し、受講数が1000名を越えました。

さらに、スキルアップを目指すために、平成26年度から年2回(7月夏コース、1月冬コース)、二次救急処置(ICLS)コースを救命救急センターの遠藤先生(コースディレクター)を中心に行ってきました。

今回、6回目を迎える平成28年度冬コースが、1月7日(土)・8日(日)に開催され、2日間で15名の参加がありました。参加者は医師、看護師、技能職、事務、学生と、色々な職種の方がおり、今後のチ

ーム医療に役立つ講習会になったのではないかと思います。

平成29年度も、講習会の企画をしていきたいと思っております。

(長野・舟橋)



医療人キャリア支援部門

平成28年度
女性医師・看護師のための復職支援プロジェクトを
開催!

本年度で6回目となる「女性医師・看護師のための復職支援プロジェクト」を実施しました。医療用シミュレータを用いて実臨床のスキルである採血、導尿、バイタルサイン、心音、肺音聴取、心電図モニター判読、一次救命処置、輸液ポンプ、シリンジポンプ操作、気管挿管(介助)、中心静脈穿刺、上部消化管内視鏡(介助)の手技、実習を用意し、このうち3ないし4つをご選択頂きました。今年度は11名の看護師にご参加頂きました。実習後の感想では復職活動、技能向上に役に立ったとのご回答を多数頂きましたが、各実習の時間が短い、その他のプログラムも可能なら取り入れてほしいとのご意見もいただき、今後さらに内容を拡充させる検討を進めています。

(船元)



● 医学部FD報告

『若人が集う大学病院を目指して！ ～マッチング勝利のキーは、あなたのフィードバック力！～』を開催しました。

2月2日に長崎大学病院医療教育開発センター長 浜田久之教授をお迎えし医学部FDが開催されました。

2004年より研修希望者と研修病院がお互いの希望を合わせる「マッチング」が行われるようになり、都市部の病院に人気が集った結果、地方は医師不足に陥ることとなったのはご存知のとおりです。そんな中、長崎大学はマッチングで好成績を続けており、平成28年度は67人がマッチし、全国に42ある国立大学病院のうち6位という素晴らしい結果を残しておられます。

本FDでは、『若人が集う大学病院』となるために長崎大学で浜田先生が行われ、さらに現在も継続して行っておられる研修医獲得の実践をお話しいただきました。学生の必要としているニーズを知ること、大学病院・関連病院含め指導医の指導力を向上させる必要があること(褒め上手の指導医になること)、教育に時間を費やせるよう医師の業務軽減に組織として取り組んだこと等々、個人や組織として取り組むべき内容を分かりやすく講演いただきました。(中島)



標準模擬患者養成講演会開催！ 標準模擬患者(Standardized Patient: SP)養成の達人になろう - 理論と実践 -

2017年3月3日、模擬患者養成における日本のトップリーダーである岐阜大学医学教育開発研究センターの藤崎和彦教授、名古屋大学卒後臨床研修・キャリア形成支援センターの阿部恵子准教授をお迎えして、講演会が開催されました。

平成19年4月から本学臨床実習で模擬患者役をして下さっている「安息の会」の皆様や指導教員、事務など約30名が参加しました。

現在、標準模擬患者については一部学外の模擬患者に頼っている状況です。2020年からは全国医学部で臨床実習後(Post-CC)OSCEの統一実施が予定されており、本学でも標準模擬患者の養成が急務となっています。

今回の講演会では標準模擬患者についての総論に引き続き、参加者とともに標準化の肝となるシナリオの擦り合わせの実習を行い、演技や評価の標準化について、実例演習形式で行われました。参加者からも多くの質問や発言がでて活発なディスカッションが行われました。

今後も養成に向けた講演会や勉強会を計画していきますので、ご興味のある方は医療人育成支援センターまでぜひご連絡下さい！心よりお待ちしております。(安倍)



● シミュレーション教育に関するシンポジウム開催！

2017年3月4日、医療人育成支援センターにて、日本医学教育学会主催の「シミュレーション教育に関する調査研究総括シンポジウム」(文部科学省 大学における医療人育成のあり方に関する調査研究委託事業)が開催され、全国より本事業の関係者約30名が参加しました。シンポジウムでは、シミュレーション教育に関する国内外の先進的取組事例の調査結果報告や全国の医学生を対象に過去3回実施したシムリンピック(シミュレーション課題を用いて臨床実習での学修成果を力試する競技大会)の成果と問題点などが活発に協議されました。開催地である本学からは、「宮崎大学におけるシミュレーション教育の取組と課題」として、医療人育成支援センター発足の経緯や、卒前・卒後一貫教育を意識したシミュレーション教育の活用事例について、小松副センター長が発表しました。



医療人育成支援センター行事案内(3月～9月)

月	日	内容
3	3(金)	SP講演会
	30(木)	医学科5年生臨床実習ガイダンス(採血実習)
	31(金)	医学科5年生スチューデントドクター認定授与式
4	4(火)	新研修医オリエンテーション(県内合同基本手技実習)
	6(木)	新研修医オリエンテーション(BLS講習会)
	10(月)	平成29年度全職員BLS講習会開始(毎月1回)
6	9(金)予定	宮崎大学医学部附属病院マッチング説明会&宮崎県内基幹型臨床研修病院合同説明会
	10(月)～28(金)	医学科4年生「総合医学・臨床診断学」講義・実習開始
7	27(木)	医学科6年生臨床実習終了納涼会&全診療科合同説明会
	土曜日開催予定	宮崎大学JMECC講習会(内科救急・ICLS講習会)
8	5(土)	医学科6年生臨床実習後OSCE試験
	10(木)・11(金)	宮崎大学オープンキャンパス(中・高校生対象)
	14(月)～25(金)	医学科2年生「早期地域医療体験実習」学外実習開始
9	25(金)	医学科4年生共用試験CBT試験
	2(土)	医学科4年生共用試験OSCE試験

宮崎大学医学部医療人育成支援センター

〒889-1692 宮崎市清武町木原5200番地

TEL:0985-85-8305 FAX:0985-85-7239 E-mail:iky@med.miyazaki-u.ac.jp